

ワケ カタチには理由がある(36)

～チャンスポート V-173



本機は、チャールズ・ジーマン(Charles H. Zimmerman)が提唱し、米国特許(US2,108,093)を取得した論理に基づき、チャンスポート社が製作した実証実験機です。自らのプロペラ後流によって揚力を獲得し、短距離で浮き上がる STOL 性能に優れる機体を目指しました。1942年に初飛行に成功し、低速でも失速せずに飛行することは証明されましたが、自らのプロペラ後流で浮き上がるという作用効果については疑問付がついたままでした。機首下面に格子状の大きな窓を有しますが、これは当初、パイロットが寝そべって操縦する、伏臥式コクピット(prone cockpit)仕様で計画された名残りと思われます。まるで団扇のように平面の被弾面積が通常の機体に比べて大きく、戦闘機に向いているかは大いに疑問ですが、米国海軍はその STOL 性能に着目して実用化を目指し、後にチャンスポート社は XF5U の製作に進むこととなります。

【模型について】

チェコの Sword 製 1/72 の簡易インジェクションキットです。背中左右に丸い星が付く初期塗装にしたかったため、スパッツ付きのタイヤを改造してスパッツ無しの支柱に作り替えています。なお、機体上面、全面の黄色はあまりに単調なので、布張り部分とそれ以外で色調を変えて塗りました。

(中川裕幸 2021年7月)